

平成30年11月16日

P T A会員の皆様

府中市青少年対策第九地区委員会
委員長 古川 博文
府中市立府中第九中学校
校長 吉田 修
P T A会長 内海 直樹
校外委員長 増田 博美

地区懇談会報告

初冬の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

10月18日に開催しました平成30年度地区懇談会につきまして、下記の通りご報告申し上げます。

ご多用の中、また夜間にもかかわらずご出席いただきました皆様、誠にありがとうございました。

記

- 日 時 平成30年10月18日（木） 午後6:30～午後8:30
- 会 場 府中市立府中第九中学校 武道場
- 参加者 九中保護者 九中教職員 来賓 青少対関係者 合計65名
- 講 師 府中市立府中第九中学校 生活指導主任 松木正宏先生
- テーマ 「～地域と共に生きていく～」
- 懇談会式次第
 - I. 全体会
 - ◆開会挨拶 府中市青少年対策第九地区副委員長 坂井恵子
府中第九中学校P T A会長 内海直樹
 - ◆テーマに関する講演 府中第九中学校生活指導主任 松木正宏先生
 - II. 分科会
 - ◆グループ別懇談会
 - III. 全体会
 - ◆全体総評・閉会挨拶 府中第九中学校 吉田校長先生

I. 全体会

講演「～地域と共に生きていく～」

府中第九中学校 生活指導主任 松木正宏先生

私には、高校だけ別で、小学校、中学校、大学も一緒という縁のある友人がいます。中学と大学では同じバレーボールチームで活動もしました。その友人が最近、住んでいるマンションの自治会活動に燃えています。何十年も付き合ってきた我々の誘いより、自治会の若い人とのつきあいを優先するほどです。そのくらい、友人にとっては今住んでいる場所、その周辺が大事なスペースになったのだと思います。特に、自分よりも年下の人たちとの関わり合いは、その若者たちが小さいころに、近所のおじさんとして声をかけたり、何かをしてあげたり、そういうところから生まれてきたようで、若者たちが成人して誘ってくれる。友人は、そういうつながりを大切にしたいという感覚のようです。

私は横浜で生まれ、小学校5年の時に東京に来ました。

横浜で過ごしていたころ私は、田んぼとか、山を探検したり秘密基地を作ったりして遊んでいました。ところが、東京に来ると、同い年の男の子たちの遊びは、もっぱら野球でした。引っ越してきたばかりの私は友達がほしい。だから仲間に入れてもらうためには、野球をやらなきゃいけない。でもやったことがないから上手くできない。プロ野球もあまり見ていなかったの、背番号を選ぶのも何番が格好良い番号なのかも分からない。切ない思いをしました。

そういう時には、横浜のことが思い出されました。学校から帰って、家の鍵が閉まっても、いくつも行き場所がありました。いつも周囲の大人の方たちが親しく声をかけてくれる空間が横浜に住んでいたころの私にはあったんです。そういう空間が東京にはなくて寂しいと思ったこともありました。

教師になってからは、大人どうしの格差意識のようなものが、子どもの友人関係にも影響を与えているのを感じたこともあります。ある保護者の方が、ご近所から孤立していて悩み事を相談できない状況にあって、追い詰められてしまいようやく学校に相談されたこともありました。

今日、こうやって集まってくださった、これがまさに地域だと思います。学校はやはり地域の一部で、お子さんが卒業しても長くこの地域に住まわれる方は、次の世代の子どもたちを見つめてくださったり育ててくださったり、そういうチャンスがあります。

この間、挨拶を題材にした道德の授業をやりました。子どもたちに「家を出てから学校に着くまで、家族以外の人に声をかけられた経験はありますか？」と聞いたら、ほとんどの生徒が手をあげました。地域の方々から「おはよう」「行ってらっしゃい」と声をかけてもらえる、幸せな子どもたちだなと思いました。

一方で、子どもたちの方は照れくささもあり、声をかけてもらってもなかなか「おはよう」と答えられなかったりするようです。特に「ってきます」が苦手です。「行ってらっしゃい」と言われた時に「ってきます」がちゃんと言えなくて、後ろめたさを感じることもあるようです。「今度はちゃんと言おうと思う」という言葉を、子どもたちから直に聞くことができ、うれしく思いました。

ところで先日、校内でガムが見つかりました。ガムとか紙飛行機というのは、学校が荒れていく前兆なんです。子どもたちはそう思っていないようですが、ほうっておくとどこまでもいってしまうことが、教師は経験から分かっています。こういう事は、子どもからのサインです。大人が気づいてちゃんと止めてあげればいい。お家でも、サインを気をつけて見てあげてください。

子どもを見つめる目、大事に育ててあげようと思う目が多ければ多いほど、その地域の子どもは幸せだと思います。そういう地域であり続けるためには、「忘れてはいけないこと」を大人が忘れないようにしなければいけない。そして、そのことをどこかで子どもに伝えていかなければいけない。子どもたち自身もクラスや部活動などで、少しずつ仲間を増やしてほしい。そして、卒業後もこの地域に住んでいたなら、「忘れてはいけない」「伝えなければいけない」という思いを共有する仲間になってもらいたいのです。

府中には歴史があります。人の入れ替わりはあっても、そこでつながれる思いがとても大切です。そして、その拠点の一つは学校でもあります。このあと、グループに分かれていろいろな話が出ると思いますが、たまたま同じグループになったのも何かのご縁です。次にどこかで顔を合わせた時には声をかけあって、良い関係作りにつなげていただけないなと思います。

どうか、この会をきっかけに皆さんがお知り合いになれますように。

II. 分科会 4グループに分かれて意見交換を行いました。

◆地域とのつながりについて

< 大人 >

- ・昔から住んでいる人、新しく入ってきた人のつながりを作るには、ある程度努力が必要。一歩踏み出して関わりを持ってみる。
- ・お祭り、お囃子などは昔から根付いているものなので入りづらく感じるかもしれないが、大人だけでなく中高生も歓迎される。
- ・親同士は関わりが希薄な面もあるが、挨拶から始めてはどうか。
- ・新しい人が入ってきて、いろいろなことが変わっていくと思う。
- ・保護者会に出るのも大切。母親がひとりで抱え込まないほうが良い。

< 子ども >

- ・部活を通じて他校の友だちができて、つながりも広がっているようだ。
- ・学校が離れても、地域のつながりが強いとつきあいは続いていくようだ。
- ・大家さんや、集合住宅の住人同士の見守りは、子どもにとっても心強い。
- ・子どもには、地域の方にちゃんと挨拶するように声かけしている。

◆やる気スイッチの入れ方について

- ・3年生になると空気が変わるので、志望校が決まっていたり、ライバルがいるなど、目標が明確だと頑張りやすい。
- ・勉強、習い事、部活、塾…すべてでベストを尽くせと言われれば、子どもは疲れてしまう。見守ることも大切。(先生より)
- ・きっかけは何から生じるか分からない。大人としてやることは、いろいろなタネをまくこと。(先生より)

◆親子のコミュニケーションについて

- ・子どもが学校の話をしていない。母親同士のつながりで、情報を得られることもある。
- ・女の子は学校のことなどを話すことが多い。
- ・会話はあがるが、子どもの本心は分からない。
- ・朝の時間を有効活用する。朝は父親が声をかけて、勉強時間を使ったり、コミュニケーションをとるようにしている。(先生より)

Ⅲ. 全体会

全体総評・閉会挨拶

府中第九中学校 吉田校長先生

地区懇談会は30年を超える歴史を持っているという話を聞いております。

地域の方々と学校職員と一緒にあって、本校の子どもたちの事について、このように話し合える機会は本当に素晴らしいと思っております。このような会を続けて行うことによって、地域が盛り上がっていくのだと思います。

これからも、この九地区のために頑張っていければと感じているところです。

今日は長い時間でしたが、ありがとうございました。